

# アリランコンサートとALS

三浦 迪子

## 1. はじまり

湯浅さんからお電話を頂いたのは、1998年春のことでした。湯浅さんは、「私も難病橋本病の患者で苦しんでいるが、テレビの『徹子の部屋』でALSの患者さんの状況を見て聞いて、私よりもっと苦しんでいる患者さんがいることを知り、何とか助けになりたい。私には歌がある、それを聞いてもらって援助をしたいと思っている。」とのこと。これは最初からの信念だったのです。

「徹子の部屋」に出られた方は、当時ALS山形県支部の支部長で、日本ALS協会の副会長の叶内さんという方です。この時の放送は全国から大きな反響があったと聞いています。

湯浅さんの考えでは初めお金は患者さんにお配りして生活の援助とお考えのようでしたが、それは不可能であり、患者会の活動のために使わせて頂くことが、間接的であるが患者に還元されることと考えましたので、それでよろしいかと初めから申し上げました。大変良く理解して頂きました。湯浅さんの願いはよくわかりましたし、有難くお受けすることにしました。

## 2. 湯浅さんの経歴（およその）

本名 崔 順泰（チェ スンテ）氏

釜山 生まれ

19歳の時 釜山中央東洋テレビ（当時TBC 現KBS）

オーディションで専属歌手1号となる。

芸名 崔 愛羅（チェ エラ）氏 ラジオやテレビで活躍

1972年 湯浅 博氏と結婚 来日 以来日本小樽市に住み 帰化

その後、甲状腺機能障害（橋本病）を発症

北海道難病連の橋本病友の会に所属

13年前より現在に至るまで

小樽商業高校韓国語講座講師、

小樽市生涯学習韓国語講座など担当

### 3. 北海道の ALS の状態

H9 に北海道 ALS 友の会が出来るまでは、北海道の ALS 患者は、個人的に北海道難病連とつながっていて、患者会はありませんでした。

1993 年 (H5) 8 月に「ALS 患者と家族を励ます集い」が千歳で開かれ、その際の益金が 13 万円弱ありました。北海道難病連から、ALS の患者会を作りませんかというお誘いを受け、発足までの 3 年間、年に 1, 2 度かの交流会 (準備会と変わっていく) の時のお部屋の使用料は無料にして頂いたり、まだ加入してなくても準備金として 5 万円の予算をつけてもらったり、事務的なことも含めていろいろ援助してもらいました。そして 4 年後の 1997 年 (H9) 北海道 ALS 友の会が発足しました。友の会が発足したときは、20 万円あまりの予算で始まりました。その後、北海道難病連の部会として加入させてもらって、配分交付金も 31 万円頂きましたし、会員登録して頂いた方々から会費と寄付金合わせて、100 万ちょっと位の予算となりました。そんな中での湯浅さんのお申し出は、本当に嬉しかったです。そのような経過があって、2001 年 (H13) 日本 ALS 協会に正式加盟となっていたのです。

### 4. アリランコンサートのこと、

わたしは、初めは正直言って具体的な様子もわからず、一回限りの公演かと思っていました。しかしちょうど日本の韓流ブームが巻き起こってきたのとほぼ並行して北海道 ALS 友の会が活動していったと思います。

湯浅さんのコンサートは、第 1 回 1998 年 (H10) に始まり、その後順調に開催されるようになりました。

湯浅さんは、今回で終了した 17 年間一貫して「アリラン」をテーマにして演奏して来られました。朝鮮半島各地には、数知れぬ「アリラン」があることを、わたしたちは知りました。昔の儒教の教えでの身分の違い、女性として母親として逃れられない悲しみ、地方によってのくらしの差などをしっかりと、哀しげに時にはかろやかに、胸にしみいるような歌声で聞かせて下さいました。

湯浅さんは、『アリラン』を歌うことは、朝鮮の文化を語ること、ALS を支援することは私の信条」でこれを終始一貫貫き通してこられ

ました。

本場韓国の方が聞いても水準の高いコンサートであったのではないかと思います。それは、韓国国立管弦楽団朴範薫団長さんの本格的な音楽とそれに応える力を持った湯浅さんの歌唱力です。湯浅さんの期待に全面的に協力をして下さった、朴先生に深い感謝を捧げます。そして湯浅さんは、まがい物でない本物の文化を伝えようとして、韓国へ何度も勉強しに行かれた事を、お聞きしていました。脱帽です。

よちよち歩きの患者会に、こんなに力を入れて下さって身に余る光栄でした。今更ながら大変なことをして下さいましたのだと思い返しています。

合間には、日本の踊りや、三味線、はてはジャズなどの出番を作って下さったことです。衣装替えなどの時間を有効に使って、日本文化と韓国文化の交流をされたと思います。

「アリラン」は、何度聞いても胸を打ちます。毎回満員のお客さんがいて、楽しみにして次回もと期待している姿は、何人も目にしました。歌の素晴らしさはもちろんのことですが、ハリのある素敵な歌声と、湯浅さんの方がまた聞きたいと思わせたのではないのでしょうか。毎回、多額のご寄付を頂き本当に有難うございました。私どもの会報「絆」で報告させて頂いております。

## 5. コンサート時の ALS の会

私たちは、コンサート会場のロビーに ALS の会の活動の様子を写した写真などのパネルや、患者さんの俳句を小樽の方に書いて頂いて張り出したり、書籍販売などをして啓蒙活動をしました。最近、私達も余力がなくなってやれなくなりました。

私達もできるだけチケットを売って協力したかったのですが、自分が参加することで精いっぱいになって、最近あまりお手伝いが出来ず、申し訳なく思っています。甘えすぎたような気がしています。

北海道難病連からも事務局長がコンサート会場でお礼のご挨拶をして下さったり、全道集会では湯浅さんのアトラクションをして下さったり、ポスター貼り、チケット販売など協力して下さいました。

## 6. 小樽のひとたち、エピソードいろいろ

コンサートを支えたのは、いろいろな方が居られたと思いますが、難

病橋本病友の会のつながりのグループです。最初から最後までメンバーの入れ替わりは有っても下支えとしてがんばって下さったそうです。もうひとつは、小樽の韓国語講座などの OB で作るファンクラブと言っているのでしょうか、その人々がだんだん増えてきて支えて下さったそうです。

私たちとのかかわりでいえば、小樽の様々なメンバーが集まって開かれた第 1 回目の実行委員会の人たちのそれぞれが、自分たちの得意分野で、また、専門分野で、その後の ALS の患者や会の活動を支えてくれることになったのが有難かったです。

特に小樽市「障害者の日」啓発事業ほほえみフェスタに参加できるように取り計らって下さいました。(夏冬 2 回参加)

会場は夏 サンモール一番街 (その後都通り)

冬 長崎屋小樽支店

ここでは、主に難病連のバザーの残り品のリサイクル品、手作り品、上富良野の新屋さんがカボチャなどの農産物の提供をしてくださって、資金を作ることが出来ました。最初の冬には、ALS サポート・イン・オタル (小樽おもちゃライブラリー、小樽商科大学社会保障法片桐ゼミ) のアイディアで、NTT 小樽支店の協力のもと、長崎屋の会場、札幌 北見 稚内をつないでメールの交換をしたのも思い出になります。夏のサンモール通りでは、小樽の菅田医院の先生の協力で、無料医療相談会を開いたりもしました。その後、「プラットホーム」という名前で、数年援助を頂きました。これも湯浅さんとのつながりがなかったら、できなかったものです。

コンサートには、毎回いろいろな方が、チケット販売、当日の司会進行などの実行委員の方々、応援して下さる方々も多士済々だったと思いますが、特に小樽保健所の所長さんは、ご挨拶で一口健康のお話はいつも時期に合ったもので、大変参考になりました。北海道 ALS 友の会から日本 ALS 協会北海道支部になったとき、記念のアトラクションにも、無理を言って「アリラン」を歌って頂きました。その時はなんと、黒柳徹子さんの妹さん、黒柳真理さんが司会をして下さり、衣装替えの合間にはバレエ「アベマリア」を踊って下さいました。真理さんは、札幌在住で弟さんも札幌で喫茶店をなさっていたので、終了後にお店に伺ってお茶を頂きながら交流をさせて頂きました。これも湯浅さんの紹介のおかげで実現したものです。

## 7. 御家族の支え

一番の支えは、夫君の理解だったでしょう。経済的にも、精神的にも支えがあったからこそと思います。具体的には、想像するしかありませんが、会場で何くれとなくサポートをなさっておられたお姿を拝見して居りました。時には差し入れなどをして頂きました。

また、会には、会報作成やバザーの時などに使って下さいと言ってエプロンを寄贈して頂いたこともあります。

## 8. 湯浅さんの人柄

### ア. 湯浅さんは、自分の信念は曲げずに貫き通す人

繰り返しになりますが、湯浅さんのすごいところは、ALS 支援と「アリラン」の二本を崩さなかったことです。おそらく、「恋に落ちた」（湯浅さんの言葉）とはいえ、夫君の住む日本に来て、最初は言葉もわからず日本とはしきたりも違っただろうし、大変だったと思います。そのうちに橋本病という病気になり、どんなに心細かっただろうと思います。日本に帰化しても祖国韓国の歌は、自分の依って立つところであり、橋本病と ALS は病気こそ違っても患者同士、心の通じ合える仲間として受け入れて下さったのだと思います。いろいろお誘いがあったかもしれないのに、その二本は崩すわけにはいかなかったのだらうと思います。

### イ. 人の気持ちがわかり、気遣いができる人

先日湯浅さんにお目にかかりいろいろお話をお聞きしました。このコンサートを通じて、いろいろな人に出会って、生涯のお友達もできた、とても幸せだったといえます。そういえるのは、良いこと楽しいこといっぱいあった、でも幸せばかりではなかった、悲しいこともあった、悔しいこともあった。でもそんな経験があったからこそ今がある、相手の立場に立って考えることが出来るようになったのだということです。まだまだ未熟だけどと言って謙遜なさっていました。人間なかなかそう思えないものです。

私もいろいろな場面でとても気遣いをする人だなと思ったことは何度もありました。

## 9. 今後のこと

これまで、コンサートが終わると、一か月くらいぐったりしている

とお聞きしていたので、心配しましたが、現在は「もうちょっとしたらどうなるか判らないけど今のところ、すっきりしてとても元気」と言っていました。「小樽商業高校の授業や、市の生涯学習教育講座も続けているし、今社交ダンスを始めてます。とても楽しいですよ」と嬉しそうでした。まだやりたいことがあるようでしたが、体調を見てから考えるそうです。

来年春に、韓国語の生徒さん達を連れて音楽の朴先生のところに、お礼を申し上げに行かれるそうです。

「アリラン」コンサートのこと、ALS の会のことは、生涯忘れないで下さるものとお見受けしました。個人的にいつまでもお友達でいたい人です。湯浅さんに心から感謝です。